令和6年度デジタル技術を活用した発信力強化事業
【愛媛県教育委員会】

文部科学省

◎授業での活用　□家庭学習での活用　○パフォーマンステストでの活用　☑小学校　☑中学校　□高等学校

実践のポイント

児童生徒の英語での発話回数 × 教師の適切な声掛け ＝ 児童生徒の英語力の向上

実践前	実践後
● 児童生徒の英語による「インプット」「アウトプット」量の不足 ● 「間違えたらどうしよう」「恥ずかしい」など、英語を「話すこと」に対する心理的ハードル ● 言語活動の充実が不十分	● 児童生徒の「インプット」「アウトプット」量の増加 ● 児童生徒の「話すこと」に対する抵抗感の軽減 ● 生徒にとって言語活動の充実度がアップ

実践内容

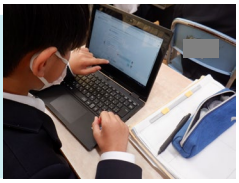
●実証校数：16校（小学校： 5 校、中学校：11校）
●対象人数：約2,500名（小学校：約300名、中学校：約2,200名）
●対象学年：小学校：第６学年、中学校：第１、２学年
●アプリ 等 ：Terra Talk（ジョイズ株式会社）
●研究内容：
・AI等のデジタル技術AIアプリ（以下、AI）を日常的（単元計画で設定した授業時数の３分の２程度）に活用することにより、児童生徒の英語による「インプット」「アウトプット」量を増加させ、間違いを恐れずに自分の考えやその理由を話す練習の機会を増やす。
・授業始めの「帯活動」や言語活動の途中の「中間指導」などの場面で活用し、「言語活動」及び「言語活動を通した指導」の更なる充実につなげる。

「AIの効果的な活用」と「教師の役割の変化」

◆言語活動前及び中間指導での、AIとの会話練習

単元目標達成に向けた言語活動と同様のトピックで設定された「場面別ロールプレイ」を活用し、言語活動前や中間指導の際に、AIとの会話練習を行う。

会話練習の際、教師は、児童生徒の会話の相手を行うことに終始していたが、生徒が話す内容や発音等を指導することや、AIとの練習が終わった児童生徒と関連する内容で対話するなど、AIとの練習を生かした指導ができるようになった。



◆言語活動につなげる、教科書本文の音読練習

言語活動で使える表現の復習や確認とともに、発音等を繰り返し練習し、友人との会話につなげるため、児童生徒の発音等が点数でフィードバックされるAIで音読練習を行う。

従来、発音練習や音読練習の際には、全体指導を中心に行っていたが、机間指導により、児童生徒の状況を個別に確認したり、練習のサポートをしたりする役割に変化した。

ここが落とし穴！「AIの活用」と「教師の役割」

◆形式的なAI活用の繰り返しや、教師からの適切なフィードバックの不足などによる、学習意欲の低下

「音読」や「並べ替え」、「ロールプレイ」などを単純に継続するだけでは、児童生徒がAI活用に飽きてきて、学習意欲の低下につながる。また、発音や表現を児童生徒が工夫しても、フィードバックとしての点数が向上しないことがあり、児童生徒が戸惑う様子が見られた。これを理由に、それまで以上に「英語は難しい」と感じる児童生徒がいた。

単なる活用が「目的」にならないよう、教師が一人一人の学習状況を適切に把握して個別に声掛けをすることで、児童生徒のモチベーションを持続させることが必要。AIに関する十分な教材研究が重要である。

成果検証

◆児童生徒の英語力

英語学習成果確認テスト【E-ACT】「話すこと」平均得点率　実証研究校16校と県平均との比較

実証研究校では、「話す力」が向上。特に中学校では、県平均以下から県平均以上に向上。

	小6		中1		中2	
	9月	12月	9月	12月	9月	12月
実証校	77.1	77.2	42.4	35.1	53.3	56.1
県	72.8	70.6	50.2	35.1	53.7	47.9
差	+4.3 ➡	+6.6	-7.8 ➡	±0.0	-0.4 ➡	+8.2

◆児童生徒の関心・意欲

本事業アンケート調査（文部科学省）より

AIの活用を通して、自分の考えや気持ちを話す抵抗感が軽減されるとともに、「話す力」の向上に向けて学習の自己調整を図ろうとする児童生徒が増えた。

● AI等のデジタル技術を利用した英語でのやり取りでは、どのくらい自分の考えや気持ちを話せましたか。
（肯定的回答）10月:50.7% ➢ 2月:53.3%(+2.6ポイント)
● AI等のデジタル技術を利用した英語でのやり取りを行ってみて、家庭等で英語の「話すこと」に関する学習に取り組むようになりましたか。
（肯定的回答）10月:17.9% ➢ 2月:19.6%(+1.7ポイント)
● AI等のデジタル技術を利用した英語でのやり取りを行った後の「フィードバック」を踏まえて、実際に学習内容や学習の仕方を変えましたか。
（肯定的回答）10月:25.7% ➢ 2月:29.2%(+3.5ポイント)

◆教師の指導

本事業アンケート調査（文部科学省）より

AIからのフィードバックを参考に、教師が自身の指導を見直し、改善・工夫に向けた意欲を向上させ、実行することにつながっていると考えられる。

● 児童生徒がAI等のデジタル技術を利用した英語でのやり取りを行っている様子やその後にもらえる「フィードバック」を踏まえて、自身の授業での指導を改善・工夫しましたか。
（肯定的回答）10月:66.6% ➢ 2月:70.6%(+4.0ポイント)